

# 長野県スポーツ推進計画（案）

平成30年(2018年)1月

長野県教育委員会

## はじめに

### ■ 計画策定の趣旨

本県では、平成 25 年 3 月に「長野県スポーツ推進計画」を策定し、県民一人一人がその自発性的のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の関心や適性等に応じて日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えるべく、様々な施策に取り組んできました。

平成 20 年度以降、本県の子どもの体力・運動能力や県民のスポーツ実施率は上昇傾向にある一方で、運動をする子としない子の二極化や、ライフスタイル・価値観の多様化なども背景とした若年世代のスポーツ活動参加の低迷のほか、少子化の進展等による運動部活動のあり方など、新たな課題も浮き彫りとなっています。

こうした中、平成 29 年 7 月に、公益財団法人日本体育協会から第 82 回国民体育大会の開催申請書提出順序の了解通知（内々定）を受け、2027 年には第 82 回国民体育大会（冬季大会及び本大会）と第 27 回全国障害者スポーツ大会の本県開催が事実上決定となりました。昭和 53 年（1978 年）以来 49 年ぶりとなる本県での両大会の開催は、全ての県民がスポーツに親しむ契機となるのみならず、次代を担う子どもたちに夢や希望を与えるとともに、本県が目指す健康長寿世界一に向けた健康増進や、本県の魅力を全国へ発信することによる観光や経済活動への波及効果も期待できるなど、大変意義深いものとなります。

現行の「長野県スポーツ推進計画」の計画期間（H25～29）の満了にあたり、本県のスポーツ界の歴史に新たなページを刻む国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催を見据え、10 年後の目指す将来像と、今後 5 年間に取り組むべき施策を明らかにした、新たなスポーツ推進に関する計画を策定することとしました。

### ■ 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第 10 条第 1 項において、国のスポーツ基本計画（第 2 期スポーツ基本計画）を参酌してその地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」です。

また、「長野県総合 5 か年計画（しあわせ信州創造プラン 2.0）」及び「第 3 次長野県教育振興基本計画」に対応する運動・スポーツ分野の個別計画として位置付け、今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めた推進計画です。

### ■ 計画期間

10 年後の「目指す姿」を見据えた前半 5 年間の計画とし、計画期間を 2018 年度（平成 30 年度）から 2022 年度までとします。

## ■ 計画の基本理念

### (第1案)

スポーツは、その魅力で人を惹きつけ、感動させ、行動を起こさせるチカラがあります。  
スポーツは、人を変え、暮らしを変え、地域を変え、そして未来を変えるチカラがあります。  
スポーツが、一人一人の暮らしや地域、その明るい未来を創造するけん引役となることを願い、現行計画の基本理念を踏襲し次のとおりとします。

「スポーツが変える」  
～ 人・暮らし・地域・未来 ～

### (第2案)

多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など、様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、次の基本理念の実現を目指します。

「スポーツを通じた元気な長野県づくり」

### (第3案)

「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」

### (第4案)

『「する」「みる」「ささえる」スポーツ文化の  
創造を目指して』

## これまでの取組

現行の「長野県スポーツ推進計画（H25～29）」では、「スポーツが変える ～人・暮らし・地域・未来～」を基本理念に掲げ、6つの基本目標のもと様々な施策に取り組んできました。その主な取組と成果を示します。

基本目標 1	学校と地域における子どものスポーツ機会の充実
--------	------------------------

### <実施状況>

#### （1）幼児期からの子どもの体力向上方策の推進

- 長野県版運動プログラムの普及
  - ・長野県版運動プログラムのDVD作成等
- 幼児期からの運動の習慣化
  - ・キッズ運動遊びどこでもゼミナール等実技講習会の開催
- 学校における体力向上に向けた取組の定着化と促進
  - ・ながのスポーツスタジアムの実施
- 指導者研修の実施
  - ・長野県版運動プログラム普及講座等の実施
- 先進好事例の市町村への普及定着支援
  - ・市町村の先進事例・好事例を市町村教委へ情報提供

#### （2）学校の体育に関する活動の充実

- 教員研修の充実
  - ・体罰根絶のための研修等、研修の機会拡大と参加呼びかけ
- 安全で充実した武道学習の定着化
  - ・剣道・柔道の研修講座の開設
- 専科教員の配置の検討
  - ・小学校への専科教員の配置には至らなかったが、個々の教員の体育学習の指導力向上を図るため各種講習会・研修講座等を開催
- 運動部活動の適正化推進
  - ・長野県中学生期のスポーツ活動指針の策定
- 外部指導者、障がい者スポーツ指導員等の活用
  - ・外部人材による高等学校指導協力派遣事業の実施
- 魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実
  - ・「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針」の策定
  - ・指導者対象講座・学校登山引率教員対象講座等の実施

- 障がいのある児童生徒に対する支援
  - ・個別の指導計画の作成、障がいのない生徒との交流学习推進
- 学校体育施設の充実
  - ・耐震化工事の推進、吊り天井等の落下防止対策の実施

### (3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

- 子どものスポーツ環境の充実
  - ・キッズ運動遊びどこでもゼミナール等の実施
- 障がいのある子どもが運動をする機会の充実
  - ・障がい者スポーツ指導員養成事業、障がい者スポーツ研修会等の実施

#### <達成目標の状況>

達成目標	目標値	実績値	達成状況
体力合計点	51 点台	50.1 点 (H28 年度)	達成困難
体力合計点の全国順位	10 位台	23 位 (H28 年度)	達成困難

基本目標 2	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
--------	----------------------

<実施状況>

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

- 身近なところでスポーツに親しめる環境の整備
  - ・ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援
  - ・ 信州チャレンジスポーツ DAY 等のスポーツイベントを実施
  - ・ 地域スポーツの新たなプラットフォーム形成支援事業の実施
- スポーツボランティア等の活動機会の促進
  - ・ スポーツ課 HP でスポーツイベント開催情報を周知
- 障がい者の自主的なスポーツ活動の支援
  - ・ 各種障がい者スポーツ教室・イベントの実施
  - ・ 県障がい者スポーツ推進会議の設置

(2) スポーツにおける安全の確保

- 指導者や施設管理者、競技に対する専門的知識の普及・啓発
  - ・ 県体協で体力向上・医科学専門委員会の実施
- AED の活用
  - ・ 市町村へ AED マップへの登録・活用の推進
  - ・ スポーツイベント等への AED 貸出
- 山岳遭難防止対策の充実
  - ・ 山岳ヘルメット着用奨励山域の設定
  - ・ 長野県登山安全条例の制定

<達成目標の状況>

達成目標		目標値	実績値	達成状況
運動・スポーツ実施率	週 1 回以上実施	65%	49.3% (H28 年度)	達成困難
	週 3 回以上実施	30%	27.4% (H28 年度)	達成困難
	1 年に一度もしない	0 に近づける	11.6% (H28 年度)	達成困難
障がい者の主なスポーツ大会、イベント、教室等の参加者数		17,700 人		

## ＜実施状況＞

## (1) コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進

- 地域スポーツ活動を支える多様な主体の連携支援
  - ・市町村と総合型地域スポーツクラブの連携支援・マッチング
- 総合型地域スポーツクラブの育成支援と安定運営に向けての支援
  - ・市町村と総合型地域スポーツクラブの連携支援・マッチングを通じた委託業務等の受注機会の創出

## (2) 地域のスポーツ指導者等の充実

- 地域のスポーツ指導者の育成
  - ・長野県広域スポーツセンター指導者派遣事業の実施
- スポーツ推進委員の活動支援
  - ・長野県スポーツ推進協議会事務局として各種会議の開催
- 有資格指導者育成の推進と有効な活用方策の研究
  - ・アドバイザー養成講習会の開催
- 指導者の相互派遣等クラブ間の連携強化
  - ・総合型クラブ連絡協議会の実施
- アシスタントマネジャー資格取得の促進
  - ・アシスタントマネジャー養成講習会の開催
- 指導者が指導に専念できる雇用環境の研究
  - ・総合型クラブ連絡協議会で情報交換・共有

## (3) 地域スポーツ施設の充実

- 誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備
  - ・施設のバリアフリー化等の働きかけ
- 県営スポーツ施設の適切な維持管理
  - ・修繕・改修工事の優先度評価制度等を活用し、計画的に施設修繕を実施
  - ・白馬ジャンプ競技場の改修
  - ・伊那運動公園野球場の改修及び伊那市への移管
- 武道を振興するための施設の検討
  - ・県立武道館基本構想の策定
- 施設の有効かつ効率的な活用
  - ・学校体育施設等の一般開放の推進
- スポーツ施設の整備及び運営面での工夫
  - ・スキー（ノルディック複合）のナショナルトレーニングセンターに白馬ジャンプ競技場及び白

馬クロスカントリー競技場（白馬村）が指定

- ・民間資金（スポーツ振興くじ（toto））を活用した施設改修の実施

○障がい者スポーツへの理解促進

- ・障がい者スポーツ情報の発信（メルマガ）
- ・「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル（東京都）」の情報提供、活用促進

#### （４）地域スポーツと企業・大学との連携

○人的・物的資源の活用

- ・総合型クラブ連絡協議会等で好事例の紹介・情報提供

#### <達成目標の状況>

達成目標	目標値	実績値	達成状況
総合型地域スポーツクラブの加入者数	25,000 人	20,080 人 (H28 年度)	達成困難



基本目標 4

競技力の向上に向けた選手強化、指導者養成の推進

<実施状況>

(1) 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上

- オリンピック・パラリンピック等の国際舞台や国民体育大会等の全国規模の大会で活躍できる選手の育成強化
  - ・オリンピック育成支援事業、SWAN プロジェクトの実施
- 一貫指導体制の充実
  - ・競技力向上専門委員会において好事例等の情報共有や課題解決の検討
- 指導者養成の取組への支援
  - ・指導者講習会、トップ指導者ミーティング等の開催
- 国民体育大会等の意義や競技結果の発信
  - ・スポーツ課 facebook、県体協だより等を活用した情報発信
- 競技者へのマルチサポートの推進
  - ・各競技団体へのスポーツ医・科学サポートチームの派遣

(2) ジュニア選手特別強化の取組

- 子どもたちがスポーツに夢を持てる選手との交流推進
  - ・各プロスポーツチームが主体となり、地域との交流イベント・スポーツ教室等を開催
- ジュニア選手の発掘・育成の推進
  - ・オリンピック育成支援事業、SWAN プロジェクトの実施

(3) 本県での開催が予定される全国大会に向けた選手強化

- 競技団体・学校体育団体の一体となった強化
  - ・本県開催の種目に対し、各団体と一体となった強化事業を実施

(4) ながの銀嶺国体の開催と選手特別強化事業の実施

<達成目標の状況>

	達成目標	目標値	実績値	達成状況
国民体育大会	男女総合（天皇杯）順位	15 位以内	18 位 (H29 年)	未達成
	冬季大会順位	1 位	1 位 (H29 年)	達成
	本大会順位	20 位台	45 位 (H29 年)	未達成

国民体育大会（少年）・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞者数	200人・団体	213人・団体 (H28年度)	達成見込み
平昌冬季オリンピック (H30.2)でSWANからメダリスト輩出	1人以上	0人	達成困難

基本目標 5	スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進
--------	---

<実施状況>

(1) トップスポーツと地域における連携・協働の推進

- トップレベルの選手が活躍する場の創出
  - ・ トップアスリート派遣事業の実施
  - ・ 長野県広域スポーツセンター指導者派遣事業の実施
- ジュニア期における適切な支援
  - ・ 競技力向上専門委員会での指導者研修の実施

(2) 地域スポーツと企業・大学との連携

- 選手が県内にとどまり競技生活を継続できる仕組みづくり
  - ・ 県内企業・学校へ選手の競技活動のための環境整備について要請
  - ・ アスリートの県内への就職支援の取組
- 大学との連携方策の検討
  - ・ 総合型クラブ連絡協議会、松本大学及び県体育センターの三者で締結した「長野県総合型地域スポーツクラブ普及・育成・支援事業の連携・推進に関する連携協定」に基づいた人材育成等の取組

基本目標 6	多面にわたるスポーツの果たす役割の活用
--------	---------------------

<実施状況>

(1) スポーツによる地域の一体感や活力の醸成

- 競技団体との連携と「スポーツの持つチカラ」の継続的な発信
  - ・ スポーツ課の HP・facebook 等を活用した情報発信
- 「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」に基づく連携事業の推進
  - ・ 県内プロスポーツチームと連携した各種啓発活動等の実施
  - ・ 銀座 NAGANO を活用したスポーツイベント等を実施
- 身近で共に取り組めるスポーツの普及
  - ・ ニュースポーツの普及・拡大

(2) 県内のスポーツ資源を活用した交流と地域の活性化

- スポーツと地域の資源を活用した地域の活性化
  - ・ 長野県スポーツコミッションの設立、スポーツ大会・合宿の誘致推進
- スポーツの視点からのアプローチによる誘客促進等
  - ・ 信州“familystyle”を各種媒体を通じて PR

- ・県内小学生にスキーリフト優待券付きパンフレットを配布
- 国際競技大会や国民体育大会等の誘致を通じた地域経済の活性化
  - ・ながの銀嶺国体(H28)・ノルディックコンバインドワールドカップ(H29)・全国中学校スケート大会(H19～)・全国レクリエーション大会(H27)等を開催

### (3) スポーツを通じた健康で活力に満ちた健康長寿社会の実現

- 青壮年期のスポーツ活動の促進
  - ・信州 ACE プロジェクト（健康づくり県民運動）の推進
  - ・効果的なウォーキング・地域のオリジナル体操の普及等
- 高齢者が無理なく身体活動に取り組めるスポーツ機会の拡充
  - ・長寿社会開発センターと連携し、信州ねんりんピックスポーツ交流大会の実施
  - ・長野県版身体活動ガイドライン「ずくだすガイド」の作成・活用



# 10年後の目指す姿と 施策の展開

## 「達成目標」について

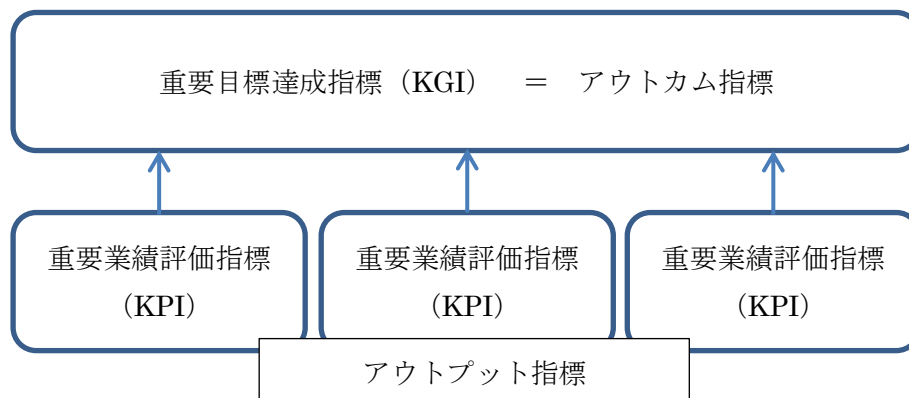
### ●目標設定の考え方

本計画の主目的である「10年後の目指す姿」の達成度を評価する指標を『重要目標達成指標 (KGI)』、「10年後の目指す姿」実現に向けて県が取り組む「施策の展開」の進捗度を評価する指標を『重要業績評価指標 (KPI)』としました。

※KGI : Key Goal Indicator    KPI : Key Performance Indicator

#### KGI と KPI の関係

各重要業績評価指標 (KPI) が目標値に達することにより、重要目標達成指標 (KGI) が達成



### ●計画への記載方法

「10年後の目指す姿」の達成度を評価する指標『重要目標達成指標 (KGI)』については、5年後 (2022年) の目標数値を設定し記載しました。

「施策の展開」の進捗度を評価する指標『重要業績評価指標 (KPI)』については、計画期間中に事業内容の見直しを行うものや新たに事業化を図る施策があるため、計画の進捗状況を検証する指標例として項目のみ記載しました。

## 基本目標 1

## 子どもの運動・スポーツ機会の充実

### 1 幼児期からの運動の習慣化

#### 10年後の目指す姿

- 長野県版運動プログラムが普及し、体を使った遊びが好きな子どもが増え、屋内外で運動をする元気な子どもたちが増加している。
- 幼児期からの運動遊びに関する理解が広がり、県内各地で活発な取組が行われている。

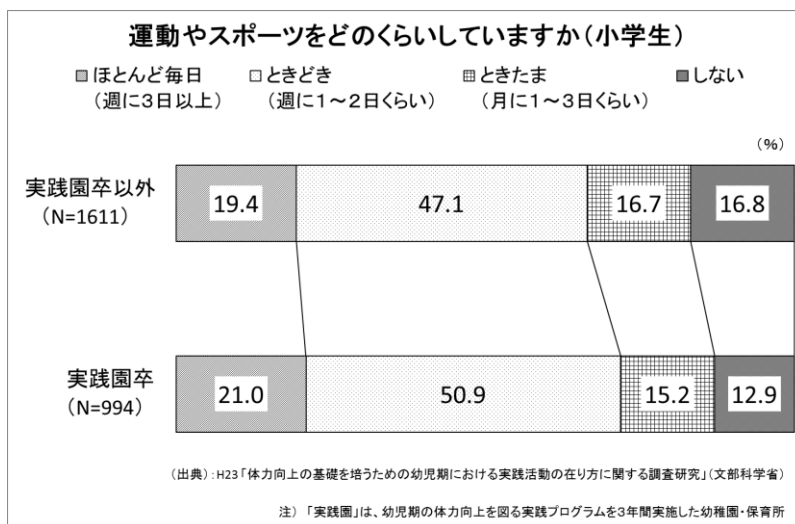
#### 現状と課題

- 幼児期の運動環境
  - ・少子化や都市化などの影響により、子どもが遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間が少なくなっており、特に外で体を動かして遊ぶ機会が減っています。
- 幼児期の運動プログラム
  - ・長野県版運動プログラムの理解は進んでいるが、さらに幼稚園・保育所、学校や家庭などへの普及を進め、運動遊びの定着化を図る必要があります。

#### 幼児期からの運動遊びが大事！

幼児期に体を動かして遊ぶ経験は、その後の運動やスポーツに親しむ資質・能力を育むことはもとより、意欲や気力、コミュニケーション能力など、子どもの心の発達にも好影響を及ぼすことが指摘されています。

幼児期に運動遊びをした子どもは、小学生になってからも運動やスポーツをする頻度が高くなるという調査結果もあり、早期の取組が有効となります。



#### 施策の展開

- 幼児期からの運動の習慣化
  - ・いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるように、幼稚園・保育所、



家庭や地域等で行う運動遊びの取組を支援します。

- ・運動習慣の定着の必要性について、乳幼児健診等の機会を活用して、保護者等へ周知していきます。

○ 長野県版運動プログラムの普及

- ・長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所、学校、家庭や地域のクラブ等での実践が進むよう、「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」等の実技研修会をすべての市町村で実施します。
- ・幼稚園・保育所、小学校に配布した長野県版運動プログラム DVD の活用を促進するとともに、家庭や地域のクラブに対しては、ホームページ上の動画の活用を呼びかけます。

○ 指導者研修の充実

- ・子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等を高められるよう、体育センター等において指導者研修を実施します。

○ 先進好事例の市町村への普及定着支援

- ・幼児期からの一貫した体力向上策に取り組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。

## 2 学校体育・運動部活動等の充実

### 10年後の目指す姿

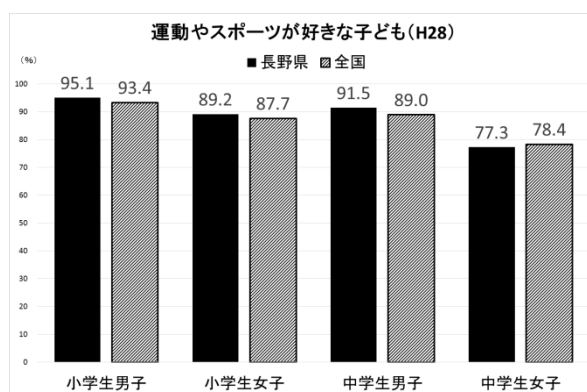
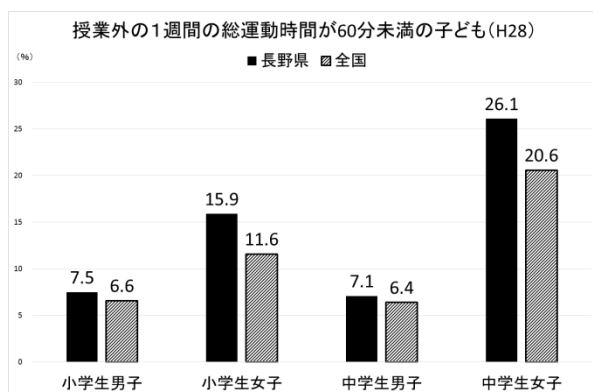
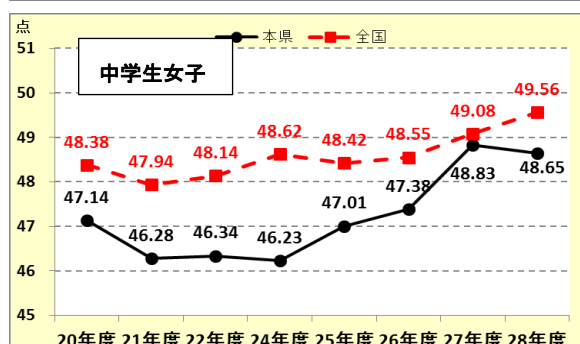
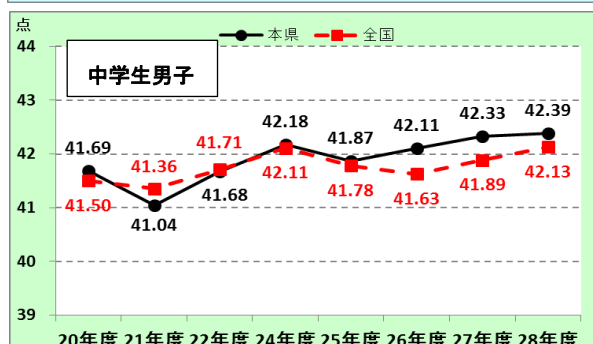
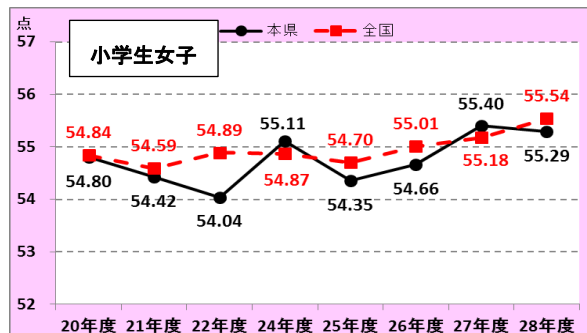
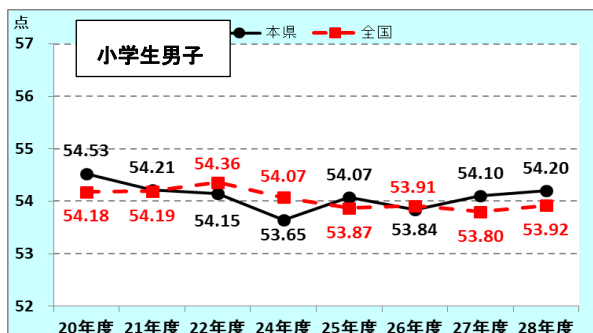
- 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に体育館や校庭などで遊ぶ子どもたちが増えている。
- 「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に基づいて中学校の運動部活動が適切に行われ、より豊かな学校生活を送ることができている。
- 少子化の進行に伴い、単独での運動部活動の成立が困難な学校においても、学校間や市町村間、または地域のスポーツクラブ等との連携により、スポーツ活動機会が確保されている。
- 国際大会や全国大会を目指す子どもたちの練習環境が整い、それぞれの目標に向けてひたむきに取り組む子どもが増えている。
- 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられ、障がいの有無にかかわらず一緒に運動遊びを楽しんでいる。

### 現状と課題

- 体力・運動習慣

- ・小中学生の体力は、近年上向き傾向にありますが、全国平均と比べると、特に女子は低い水準にあります。
- ・小中学生の運動時間（週 60 分未満の割合）は、全国平均と比べると低い水準にあり、特に中学生の女子は、4 人に 1 人がほとんど運動をしていない状況にあり、運動をする子どもとしない子どもの二極化が顕著となっています。

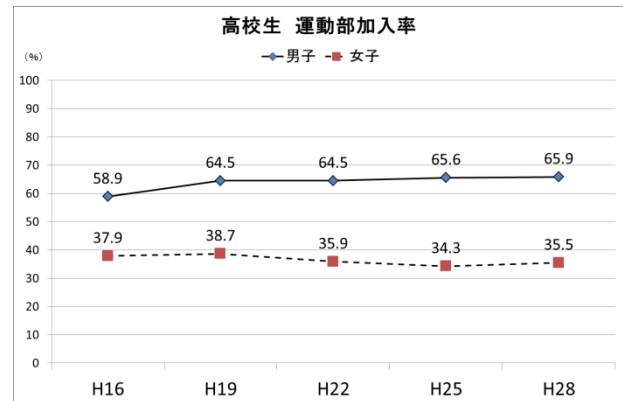
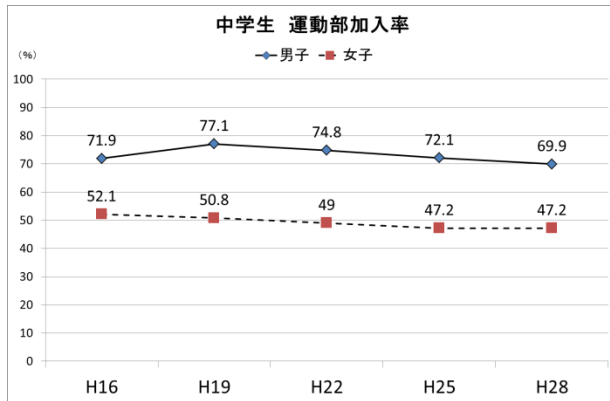
### 体力合計点の推移



### ○ 運動部活動

- ・少子化の進行により学校単位での運動部活動の存続に困難が生じている地域があり、また、教員の専門外種目の指導など負担軽減の観点から、運動部活動のあり方の検討が求められています。
- ・運動部活動加入率は、年々減少傾向にあり、特に女子の加入率は低い状況が続いています。

- ・大会等で好成績を挙げることを追及するあまり行き過ぎた練習に陥り、心身の成長過程にある中学生期のスポーツ活動に適性を欠く状況が一部に見られます。



○ 安全指導

- ・児童生徒が行うスポーツ活動の安全確保は、重点課題として引き続き取り組んでいく必要があります。
- ・「<sup>けい</sup>頭頸部外傷事故発生時の対応フローチャート」の内容や「高校生の冬山・春山登山における安全確保指針」のほか、各種の安全確保通知の主旨を徹底して、すべての関係者の意識を高めていく必要があります。

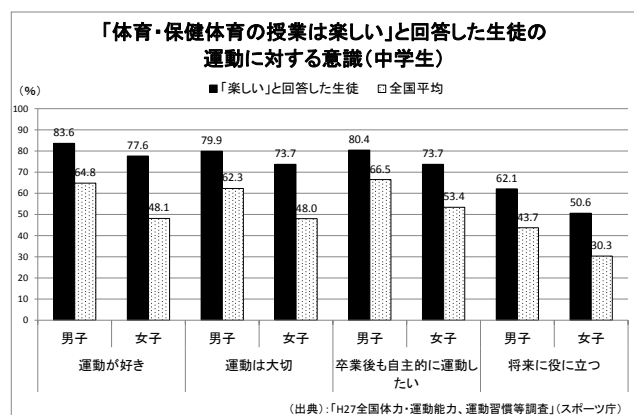
○ 障がいのある子どものスポーツ

- ・障がいのある子どもへの安全なスポーツ指導法や障がい特性を理解した指導者が不足しています。
- ・障がいのある子どもとない子どもと一緒に運動をする機会が広がっておらず、障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流などの環境の整備が必要です。

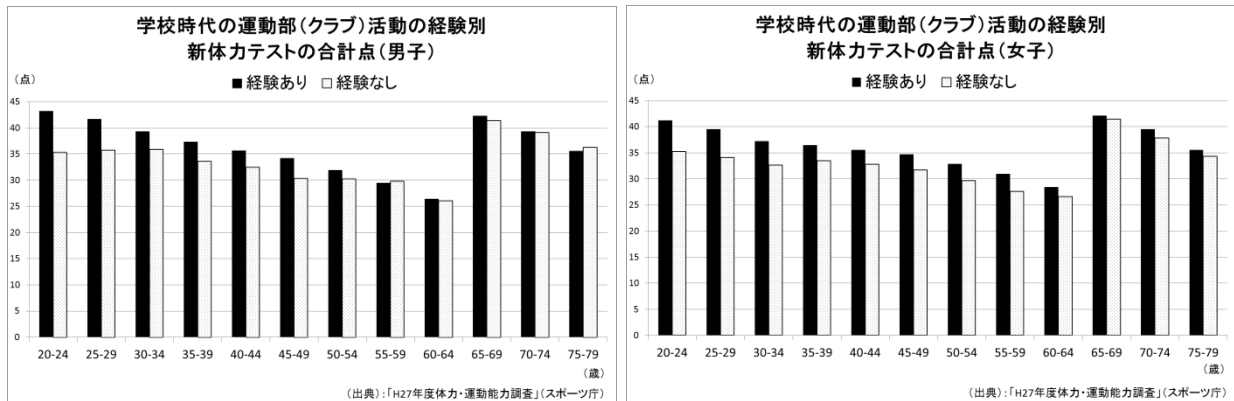
「楽しい体育授業」が運動日常化のカギ！

学校における体育学習は、子どもの運動能力向上にとって重要な機会となります。

体育授業は楽しいと感じている児童生徒は、運動・スポーツが「好き」「大切」と感じたり、「卒業後も自主的に運動したい」といった肯定的な意識が高くなっています。



## 運動部活動の経験と各年代における体力の関係



運動部活動の経験がある者は、多くの年代においても体力合計点が高い状況になっています。

### 施策の展開

- 体育・保健体育授業の支援
  - ・運動の楽しさが実感できる授業づくりを推進します。
  - ・児童生徒一人一人に応じた目標設定や振り返りの場面での「承認活動」などを通じて、子どもの意欲を引き出す授業を推進します。
  - ・中学生や高校生の女子が伸び伸びと運動ができるよう運動種目に応じて授業形態やグルーピングを工夫し、体を動かすことの楽しさが実感できる授業を推進します。
  - ・信州型コミュニティスクール等を活用した体育授業のサポート体制を構築します。
  - ・県内で開催されるトップレベルの競技会観戦を授業の一環として実施することを推進します。
  - ・小学校における専科教員について、その効果を検証しながら、今後の配置について検討していきます。
- 学校における体力向上に向けた取組の促進
  - ・2027年国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用し、運動好きな子どもを増やすとともに体力向上を目指します。
  - ・「体力向上プラン」や「一校一運動」に女子の運動量が保証されるよう、各校の工夫した取組を支援します。
  - ・ながのスポーツスタジアム、体力テスト結果の活用等により、データの分析や適切な目標の設定、記録への挑戦等について支援を行います。
  - ・小中学生の体力テストの結果をスポーツ推進委員も共有することにより子どもの実態を把握し、地域のスポーツイベントの工夫に活用できる仕組づくりを研究します。
- 適正で効果的な運動部活動の推進
  - ・「長野県中学生期のスポーツ活動指針」に基づく発達段階に応じた適正で効果的な活動を通して、運動好きで生涯にわたり運動に親しむことができる子どもの育成を目指します。
  - ・運動の機会の少ない中学生や高校生の女子が、気軽に楽しくスポーツができる運動部の設置など

の取組を支援します。

- ・生徒の多様なニーズや部員数の減少等に対応するため、部活動指導員の導入、複数種目を総合した総合部活動や複数校による合同部活動等、地域の実情に合った運動部活動の体制づくりの推進を支援します。
- ・総合型地域スポーツクラブ等と連携した外部指導者の導入を積極的に推進し、質の高い活動や指導力の提供に努めます。
- ・体育センターでの研修講座等により、発達段階に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上を図ります。

○ 学校体育・スポーツ活動の安全性の確保

- ・武道をはじめとする学校体育・スポーツ活動に対する指導者の安全意識を高めるため、体育センターや研究協議会等での研修を充実させ、安全で効果的な活動を推進します。
- ・「<sup>けい</sup>頭頸部外傷事故発生時の対応フローチャート」をすべての関係者が共有し、事故が発生した際には、同フローチャートに基づいた適切な対応により、重篤事故の防止に努めます。
- ・高校生の冬山・春山での登山活動を安全に行うため、「長野県高校生の冬山・春山登山における安全確保指針」の遵守・徹底を図ります。
- ・地域の指導者等の積極的な活用による指導体制の充実や施設の整備・安全確認等について支援します。

○ 教員研修の充実

- ・体育センター等における教員の研修機会を充実し、教員の指導力向上を図ります。

○ 障がいのある児童生徒に対する支援

- ・特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた指導・支援の充実を図ります。
- ・障がいのある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育や運動を行うことにより交流を深める取組を推進します。
- ・トップアスリートとの交流等を通じ、パラリンピック等の障がい者スポーツを志向できる環境づくりを推進します。

### 3 子どもを取り巻くスポーツ環境の充実

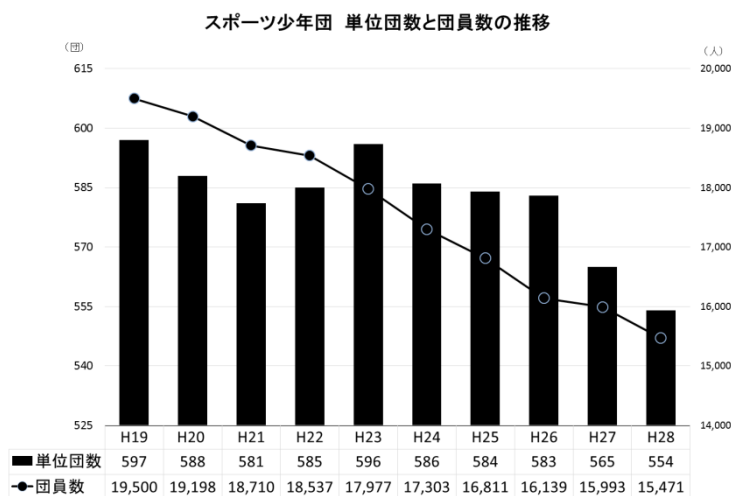
#### 10年後の目指す姿

- 地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加するなど、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。
- 子どもたちが仲間同士で、安全に自然体験活動ができる場所やスポーツ施設が身近にあり、屋内外で体を動かして楽しく遊ぶことができる環境が整っている。
- 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。
- プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、応援や試合観戦など、みるスポーツの楽しさを実感している。
- 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。

#### 現状と課題

##### ○ 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境

- ・子どもたちが気軽に遊べる施設や機会が十分整備されていない状況にあります。
- ・スポーツ少年団の数や団員数が減少傾向にあります。
- ・親子で参加できるスポーツイベントは増えていますが、興味を引く内容にしたり、参加しやすい時間帯の開催にしたりするなど、参加者を増やす工夫が必要です。
- ・子どもの余暇時間は、スマートフォンなどのネット利用に多くの時間が充てられています。



##### ○ 障がい者スポーツ

- ・障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などの開催が不足しています。

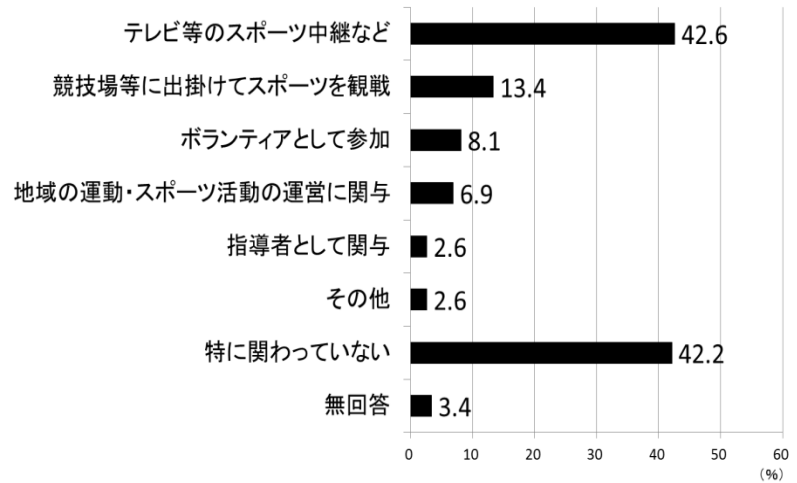
## 「みるスポーツ」の普及を

長野県では、1998年の長野冬季オリンピック・パラリンピック以降、国際大会等が数多く開催されています。また、地域密着型のプロスポーツチームが誕生し、トップレベルの競技を間近で観戦できる機会は増えています。

しかし、実際に「競技場等に出掛けスポーツを観戦」したことがある人は1割程度であり、「みるスポーツ」の普及が進んでいません。

家族と一緒にスポーツを観戦する子どもは、スポーツへの興味や関心が高まり、自身の総運動時間も増え、体力合計点も高くなるという調査結果もあります。

### 運動・スポーツを「する」以外での関わり方（複数回答）



(出典)：「H28県政モニターアンケート調査」(長野県)

## 施策の展開

### ○ 子どものスポーツ環境の充実

- ・学校体育以外でも運動をしたい子どもや、運動習慣が身につけていない子どもなど、多様なニーズのある子どもの受け皿となるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツクラブの充実を図り、全ての子どもに運動機会を提供できる環境を整えます。
- ・2027年に開催する国体や全国障害者スポーツ大会への関心を高め、「する・みる・ささえる」スポーツの参加機会を増やし、運動の楽しさが得られるように努めます。
- ・体育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。
- ・県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、子どもたちが武道を観たり、体験する機会を提供します。

### ○ 魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実

- ・山岳総合センターでの研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します。

### ○ 親子参加型スポーツ体験の充実

- ・休日などに親子で参加できるスポーツ大会の開催を増やし、運動に親しむきっかけづくりを図るとともに親子の絆<sup>きずな</sup>を育む取組を推進します。
- ・県内で開催されるプロスポーツをはじめとするトップレベルの競技を親子で観戦し、スポーツについて親子で語り合うことによりスポーツ関心度を高めます。

- 障がいのある子どもの運動機会の充実と障がい者スポーツに対する理解の促進
  - ・全国障害者スポーツ大会の認知度向上と開催機運の醸成に努めます。
  - ・障がいのある子どもを対象とした、スポーツ体験会を充実します。
  - ・障がいのある子どもの保護者に対し、スポーツを行う意義の啓発を行います。
  - ・障がいのある子どもがスポーツをする際に、障がいの程度や種類に応じて必要な配慮がなされるよう、関係者や保護者の障がいに対する理解を促進します。
  - ・障がいのある子どもとない子どもと一緒にスポーツできる環境づくりを推進します。
  - ・小中学生・保護者を対象に、障がい者スポーツの体験会を開催し、障がい者スポーツや障がい者の社会参加に関する理解促進を図ります。

**達成目標**

**<基本目標1> 子どもの運動・スポーツ機会の充実**

◆重要目標達成指標 (KGI)

指標名	現 状	目標 (2022 年度)	備 考
体力合計点 (小中男女合計平均)	50.1点 (H28年度)	52点	10年後にH28の全国1位の水準(54.0点)を目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合 (中学生女子)	77.3% (2016年度)	80%	10年後にH28の全国1位の水準(82.9%)を目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】
体育授業以外の1週間の運動実施時間が60分未満の子どもの割合 (中学生女子)	26.1% (2016年度)	20%以下	10年後にH28の全国平均の水準(20.6%)を目指す 【全国体力・運動能力、運動習慣等調査(スポーツ庁)】

◇重要業績評価指標 (KPI)

運動部活動加入率

地域スポーツクラブ加入率

総合型地域スポーツクラブによる長野県版運動プログラム実施数

長野県版運動プログラム実施市町村数

キッズ運動遊びどこでもゼミナール実施市町村数

長野県版運動プログラム普及講座(体育センター)受講者数

一校一運動実施率

ながのスポーツスタジアム参加数

信州型コミュニティスクールを活用した授業実施数

競技観戦を実施した授業数

学校体育指導者研修(体育センター)受講者数

学校体育実技(武道)講習会受講者数

運動部活動指導者研修受講者数



部活動指導員導入学校数

地域との連携による部活動実施市町村数

部活動指導力向上研修（体育センター）受講者数

障がい者スポーツ指導員の数

体験会や交流会等を実施する市町村の数

総合型地域スポーツクラブによる「ゆる部活」実施数

## 基本目標 2

## 生涯を通じたスポーツ機会の充実

### 1 ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

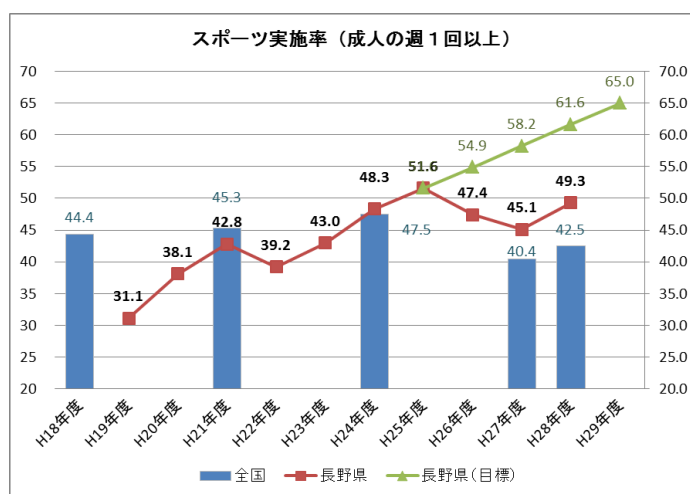
#### 10年後の目指す姿

- 多くの県民が余暇時間を有効に使い、適性や目的等に応じて、家族や仲間とスポーツ活動を楽しんだり、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っている。
- プロスポーツチームの試合や各種スポーツ大会の観戦・応援など「みるスポーツ」の楽しさを実感している。
- スポーツボランティアとして地域のスポーツ活動を盛り上げるなど、「ささえるスポーツ」層が増加している。
- 障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解が促進され、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流が拡大されている。

#### 現状と課題

##### ○ 運動スポーツの習慣化

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率は、50%を下回り、その理由は「仕事（家事・育児含む）が忙しいから」が最も多くなっています。
- ・近年、余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間が充てられており、運動・スポーツに参加する習慣が定着しているとは言い難い状況です。
- ・障がい者のスポーツ実施率は、障がいのない人（成年）の半分以下という状況です。（H27 スポーツ庁調査：障がい者の週1回以上 19.2%）



##### ○ 長寿社会に向けた運動による健康づくり

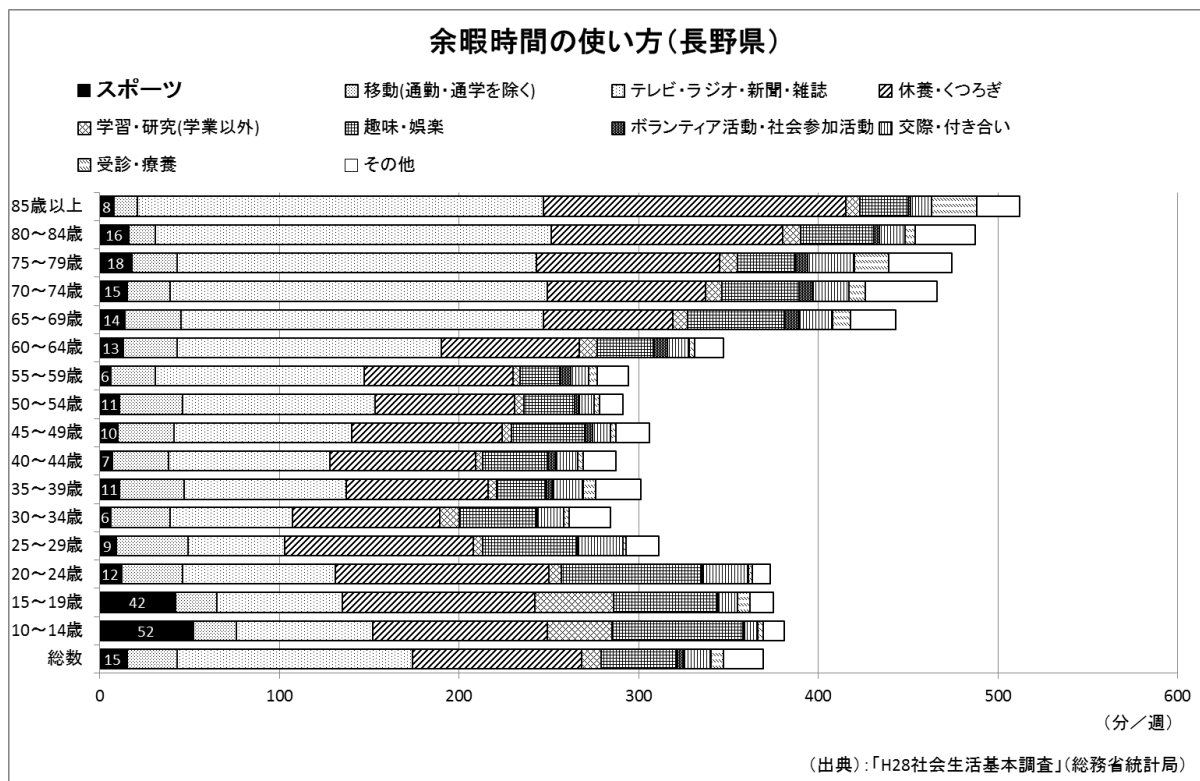
- ・高齢者が手軽にできる運動の提供などができる指導者が不足しています。
- ・適切な指導者の指導の下で、自分の体力や生活スタイルに配慮しながら継続できる運動・スポーツをすることが重要です。
- ・高齢者が身近な場所で運動できるような支援ボランティアが不足しています。
- ・生活習慣病になる一因として、運動不足があげられています。

##### ○ 「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」

- ・プロスポーツチームの誕生により、競技レベルの高い試合を観戦する機会が増えています。
- ・実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合は、1割程度に留まっています。
- ・各種スポーツイベント、スポーツ大会、スポーツ教室などにボランティアとして参加している人の割合は、1割に届かない状況です。(22 ページグラフ参照)

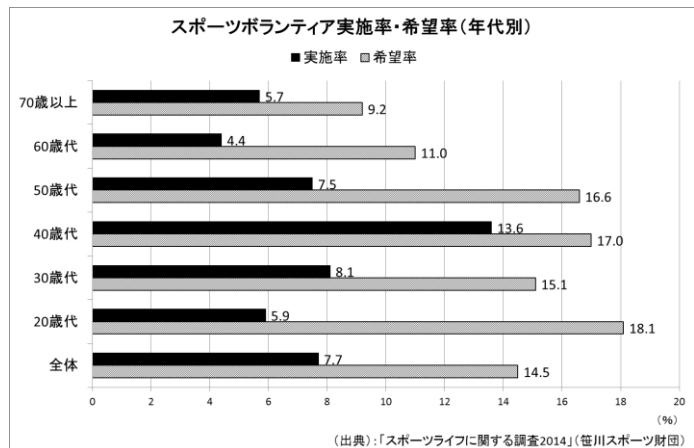
### 余暇活動としてのスポーツを！

学生時代は、運動部活動などでスポーツに慣れ親しんでいた人も、社会人になってから時間的余裕がなくなり、スポーツから離れてしまう傾向が多く見られます。



## 若者からのスポーツボランティア定着を！

スポーツボランティアの実施希望率が最も高い20代を中心にボランティア活動の機会を積極的に提供することにより、スポーツボランティアの活性化が期待されます。



### 施策の展開

- ライフスタイルに応じた「するスポーツ」の普及
  - ・2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、「するスポーツ」の拡大を図り、県民の健康づくりを推進します。
  - ・県レクリエーション協会等と連携し、軽運動やニュースポーツなど、高齢者や障がい者も気軽に行える運動・スポーツを普及し、余暇時間におけるスポーツの習慣化を促進します。
  - ・スポーツに関わる余暇時間が少ない世代が、できるだけスポーツに興味や関心を持てるような働きかけを行います。
  - ・働き盛り世代の健康増進のため、企業等と連携し、スポーツ機会の拡充を図ります。
  - ・運動時間が不足しがちな育児中の女性が心身の健康を保つための運動など、女性のニーズや意欲に合ったスポーツ機会の提供を促進します。
- 青壮年期のスポーツ活動の促進
  - ・生活習慣病予防のため、運動不足になりがちな働き盛り世代が、日常的な運動に取り組めるよう、効果的な運動手法の紹介や、健診、保健指導の際の意識啓発を推進します。
- 高齢期のスポーツ活動の促進
  - ・体を動かす楽しみや介護予防の観点から、高齢期におけるスポーツ活動が積極的に取り組まれるよう支援します。また、高齢者の身近な場所で運動を支援する運動支援ボランティアの育成を支援します。
  - ・体力的な理由等により運動・スポーツをすることが困難な高齢者に対し、スポーツ観戦やスポーツボランティアへの参加等のスポーツとの関わり方を普及し、スポーツが生活に潤いを与える社会の実現を目指します。
- 「みるスポーツ」の普及

- ・2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、県民の「みるスポーツ」の習慣化を促進します。
- ・県内で開催される世界大会や全国大会の情報を収集し、トップレベルの競技を身近で観戦できる機会の発信に努めます。
- ・県内に本拠地を置くプロスポーツチームのファン・サポーターを増やし、県内で開催される試合の観戦者の増加を目指します。
- ・本県出身のプロスポーツ選手やトップアスリートの活躍を広く県民に広報し、県民のスポーツへの関心度を高めます。

#### ○ 「ささえるスポーツ」の普及

- ・2027年の国体・全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、県民の「ささえるスポーツ」への参加人口の拡大を図ります。
- ・地域におけるスポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、地域のスポーツクラブ等の活動の充実を図ります。
- ・スポーツボランティアの実施希望率が高い若者世代が、ボランティア活動に参加しやすい環境の整備を進めます。
- ・障がい者スポーツの支援にスポーツボランティアとして参画する者が増加するよう、関係機関と連携して取り組みます。

#### ○ 長野県の特徴を活かしたスポーツの推進

- ・県民が親しみをもって取り組んでいるスポーツ競技を推進し、多くの県民が生涯を通じてスポーツを身近に感じることができる環境づくりを推進します。

#### ○ 障がい者のスポーツ参加機会の拡大と理解促進

- ・障がい者が、適性や目的に応じたスポーツ活動ができるよう、様々なスポーツの体験教室を開催します。
- ・多くの障がい者が参加できるよう、障がい者スポーツ大会を充実します。
- ・スポーツ体験会やセミナーの開催を通じて、障がい者及び介護者等に対し、スポーツの意義を啓発します。
- ・ホームページやメールマガジン、県・市町村広報誌などを通じ、障がい者スポーツに関する情報の発信を行い、障がい者スポーツに対する理解を促進します。
- ・特別支援学校の生徒が、卒業後に継続してスポーツを行うことができるよう、特別支援学校と総合型地域スポーツクラブが連携して取り組みます。

## 2 地域のスポーツ環境の整備

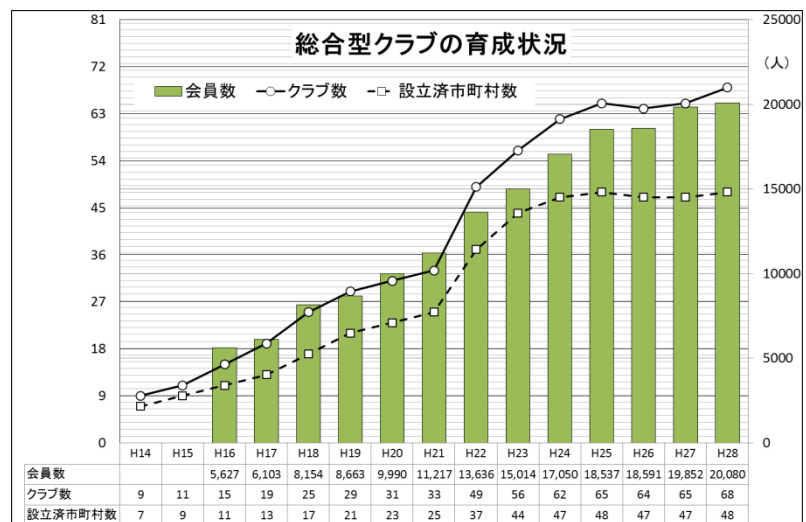
### 10年後の目指す姿

- スポーツ推進委員がコーディネーターとなり、それぞれの地域で、個々の目的や適性等に応じたスポーツ活動が活発に行われている。
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、社会体育団体やその他のスポーツクラブ等が、それぞれの地域で充実した活動を展開している。
- 障がいの種類、程度、適性や目的等に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。

### 現状と課題

#### ○ 身近な場所でスポーツに親しめる環境の整備

- ・身近で気軽にスポーツができる機会、場所、指導者、支援者等の環境を整備する必要があります。
- ・スポーツ推進委員は、地域でのスポーツ活動のコーディネート機能の発揮が求められています。
- ・総合型地域スポーツクラブでは、自主財源や会員の確保、指導者の育成や確保などが課題となっています。



- ・地域における指導者相互の連携が不足しています。
- ・スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められています。

#### ○ 障がい者スポーツ

- ・障がい者スポーツに対する認知度や理解度がまだまだ広がっておらず、障がい者スポーツの実施環境整備の遅れや指導者不足が生じています。
- ・競技の指導技術と障がい理解を併せ持つ指導者が不足しています。
- ・障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会の開催が求められています。

### 施策の展開

#### ○ スポーツ推進委員の活動支援

- ・スポーツ推進委員が、学校、地域、スポーツ団体及び民間スポーツクラブ等の橋渡し役となり、地域スポーツのコーディネーターとして活動できるよう、市町村と連携してその活動を支援しま

す。

- 総合型地域スポーツクラブの育成と安定運営に向けての支援
  - ・地域のスポーツ活動を支える中核組織である総合型地域スポーツクラブの自立的な運営を支援するため、関係団体と連携し中間支援組織の整備を目指します。
  - ・県体育センターにおいてアシスタントマネージャー養成講習会を開催し、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる中心的人材の育成を推進します。
- 地域スポーツ拠点のマルチ化
  - ・公民館、文化施設、商店街のコミュニティスペース等において、従来から行っている生涯学習・文化・地域活動に加えて、新たにスポーツ活動を行う取組を支援することにより、スポーツ無関心層等が気軽に参加できる環境整備を促進します。
- 地域スポーツ指導者の養成
  - ・県体育センター等の研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。
  - ・スポーツで活躍した選手やスポーツ指導法を学んだ大学卒業生が、総合型地域スポーツクラブ等においてスポーツ指導に従事できるような環境づくりを研究していきます。
  - ・地域のスポーツ指導者相互の連携を図ります。
  - ・障がい者スポーツ指導員の養成講習会を開催します。
- スポーツにおける安全の確保
  - ・県体育センター、長野県体育協会、長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会を通じて、最新のスポーツ医・科学的知見に基づくスポーツ事故・外傷・障がい特性等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組を推進します。
  - ・市町村やスポーツ団体に対し、AEDの設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにAEDを使用できる体制整備を図るよう啓発します。
- スポーツイベントの充実
  - ・「信州チャレンジスポーツDAY」、「長野県障がい者スポーツ大会」、「信州ねんりんピック」等、広く県民が参加しスポーツに親しめるイベントの充実を図ります。
- スポーツ施設の充実
  - ・国体競技施設整備基本方針に基づき、会場地市町村と連携しながら、大会後も地域スポーツ拠点となる施設の整備を計画的に進めます。
  - ・県営スポーツ施設が、ニーズの変化に対応し、身近で利用しやすい施設となるよう、利用者の意見に十分配慮しながら施設の充実に努めます。
  - ・体操等が気軽にできる場として都市公園等オープンスペースの有効活用を推進し、施設以外にもスポーツができる場を創出します。

- ・誰もが気軽にサイクリングを楽しめるよう、諏訪湖周にサイクリングロードを整備します。

○ 県立武道館を核とした武道振興

- ・県立武道館を核として、武道団体や各地の武道施設と連携し、武道の普及を図ります。
- ・全国大会を継続的に誘致し、トップレベルの選手を間近で「みる」機会を増やします。

○ 地域における障がい者スポーツ環境の整備

- ・スポーツ推進委員が、地域内で広く人々とスポーツを通して関わり、障がい者スポーツの普及や発展に努められるように支援します。
- ・総合型地域スポーツクラブが、障がい者スポーツを導入するためのガイドブックを普及し、総合型地域スポーツクラブへの障がい者の参加を促進します。
- ・障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、県・市町村の運動施設での障がい者スポーツ用具の整備を推進します。
- ・障がいがあることを理由に施設利用が制限されないことがないよう、施設管理者や職員の障がい者スポーツに対する理解を促進します。
- ・障がい者が身近な場所でスポーツを楽しめるよう、特別支援学校の体育館などの体育施設や競技用具を地域に開放します。
- ・障がい者スポーツ地域コーディネーターが、障がい者スポーツを支える行政・関係団体・指導者等のネットワークを構築します。

○ スポーツを通じた共生の社会づくり

- ・2027年の全国障害者スポーツ大会の開催機運を活用して、障がい者の社会参加の促進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、スポーツの力による共生社会づくりを推進します。

**達成目標**

◆重要目標達成指標（KGI）

指標名	現 状	目標（2022年度）	備 考
運動・スポーツ実施率	49.3% (H28年度)	65%	国の「第2期スポーツ基本計画」の目標値と同一 【県政モニターアンケート調査】
直接スポーツ観戦率	13.4% (H28年度)	15%	10年後に20%を目指す 【県政モニターアンケート調査】
スポーツボランティア参加率	8.1% (H28年度)	10%	10年後に15%を目指す 【県政モニターアンケート調査】
地域スポーツクラブ加入率	10.1% (H28年度)	12%	10年後に過去最高水準の14%を目指す 【(加入者数) スポーツ課調】 【(県人口) 毎月人口異動調査】



◇重要業績評価指標（KPI）

障がいのある人が参加するプログラムを行っている総合型地域スポーツクラブの数

アシスタントマネージャー養成講習会（体育センター）受講者数

地域スポーツの新たなプラットフォーム形成支援事業実施市町村数

生涯スポーツ研修講座（体育センター）受講者数

スポーツ事故等に関する講習会（体育センター）受講者数

信州チャレンジスポーツDAY参加者数

## 基本目標 3

## 全国や世界で活躍する選手の育成

### 1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上

#### 10年後の目指す姿

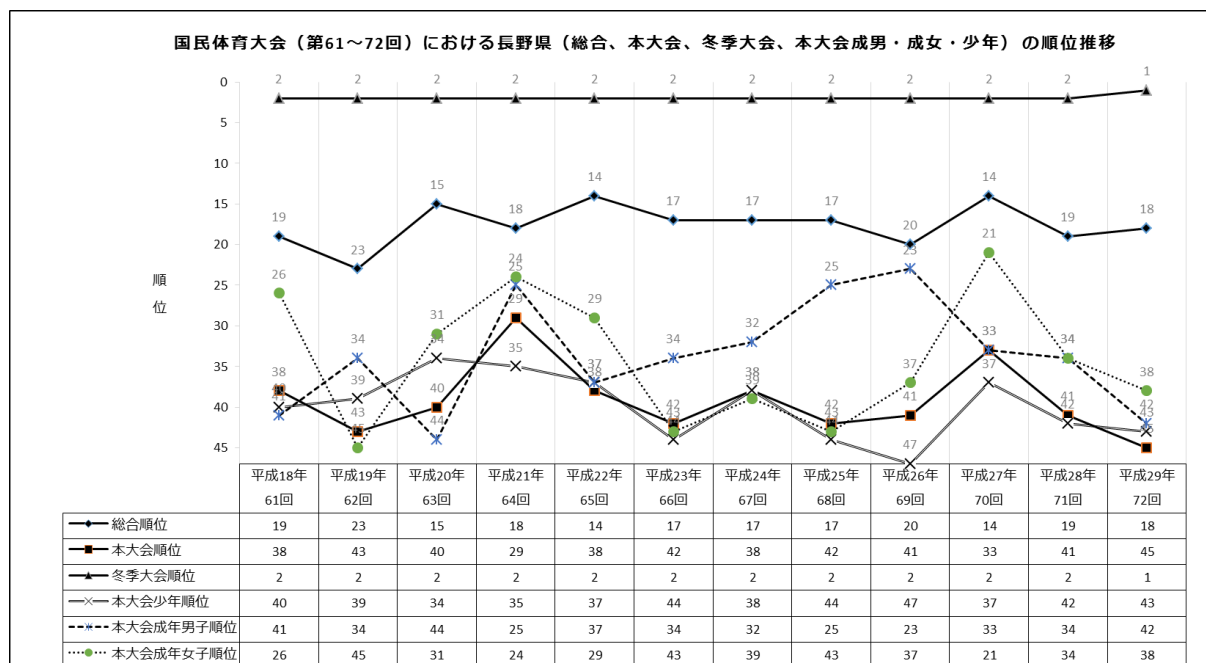
- オリンピックやパラリンピックなど、国際舞台や全国大会で活躍する本県選手が増加している。
- 最先端の医科学サポート等の専門的な指導を受けられるなど、選手の練習設備や支援体制が準備されている。
- ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファーなど、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。

#### 現状と課題

- 選手の育成・強化
  - ・国際大会や全国大会での本県選手の活躍は、県民に元気や勇気を与え、地域の一体感を醸成しています。
  - ・近年の本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では40位台と低迷が続いています。
  - ・国民体育大会等での活躍が一部の種目に偏っている傾向にあり、競技力全体の底上げが必要です。
  - ・障害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学の面からの支援が求められています。
  - ・女性アスリート育成のための支援が必要です。
- ジュニアの発掘・育成
  - ・国際舞台や全国大会で活躍できるジュニア期からの選手育成が求められています。
  - ・ジュニア期からの有望選手の発掘は、一部競技に留まっています。
  - ・少子化やスポーツ離れによるジュニア選手の減少とともに、有力選手県外流出が続いています。
- 指導者の育成
  - ・指導者の高齢化等による指導技術の継承や女性指導者の不足などが課題となっています。
- 審判員の養成
  - ・2027年の国体や全国障がい者スポーツ大会を控え、審判員や競技運営員の不足が課題となっています。

## 2027年国民体育大会 天皇杯・皇后杯獲得を目指す！

- 平成29年度本大会での男女総合成績は45位と厳しい結果となっています。
- 本大会での少年種別獲得得点順位は、平成28年42位、平成29年43位と低迷しています。ターゲットエイジからのジュニア選手の発掘・育成が必要です。



### 施策の展開

- 2027年の国体に向けた競技力向上対策
  - 2027年国体で本県選手が活躍するため、関係団体で構成する競技力向上対策本部を設置して、長期的な「競技力向上基本計画」を策定し、計画的に選手育成・指導者養成等に取り組みます。
  - 2027年国体・全国障害者スポーツ大会開催後も成績を維持できる選手の育成・強化体制の整備を進めます。
  - 全国障害者スポーツ大会で、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。
- 一貫指導体制の充実
  - 各競技団体が行う一貫指導体制による選手強化を支援します。
- マルチサポートの推進
  - 各競技団体が行う強化合宿や強化練習等へのスポーツドクター、トレーナー、栄養士等を派遣し、競技者のコンディショニング調整をサポートします。
  - 競技者、指導者が体力や健康状態を正確に把握し、ドーピング防止等医科学の面からサポートします。

- 女性アスリートへの支援
  - ・女性特有の課題に着目した医・科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。
- 異種競技間交流・合同トレーニングの推進
  - ・異種競技間の交流や合同トレーニングの機会を増やし、異種スポーツの知識や技術の活用、選手のトランスファーを進める取組を支援します。
- 冬季競技の強化
  - ・本県の強みでもある冬季競技の選手強化と競技人口の拡大に努めます。
- ジュニア選手の発掘・育成の推進
  - ・小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちを発掘する体制を整備します。
  - ・SWANプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。
- トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起
  - ・トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。
- 指導者養成の取組への支援
  - ・体育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。
  - ・長野県体育協会と連携し、各競技団体における指導者育成を支援します。
  - ・有力選手の県外流出に歯止めをかけるため、優秀な指導者を育成し、その情報を広く発信します。
- 審判員の養成
  - ・本県の競技力向上につなげるため、国体・全国障害者スポーツ大会の審判員や競技運営員等の養成と技術力の向上を図ります。
- 県立武道館を核とした武道強化
  - ・県立武道館にトップレベルの選手・指導者が参加する大会や講習会を誘致し、「みる」機会を充実させ、質の高い指導を行うことで競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。
  - ・体系的な指導者育成・研修プログラムにより指導者養成を行い、適正で効果的な指導の普及を図ります。
- 大学や企業との連携
  - ・県内の大学・企業等と連携し、ICTや最先端のスポーツ医・科学を利用したトレーニングが受けられる体制の整備を進めます。

- ・企業に対し、アスリート育成や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。

○ 障がい者アスリートの養成

- ・障がい者競技団体が行う海外遠征や競技用具購入、医・科学トレーニングに要する費用を助成し、競技力の向上を支援します。
- ・一般スポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上を支援します。
- ・障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者とスポーツを支える指導者等とを結びつけます。

○ 障がい者スポーツの理解促進

- ・障がい者スポーツに対する県民の理解と関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。

## 2 スポーツ界の好循環の創出

### 10年後の目指す姿

- ▶ 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。
- ▶ 高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。
- ▶ 本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。

### 現状と課題

○ アスリートの県内定着

- ・アスリートが県内に就職し練習拠点を持ち、全国や世界で活躍できるための環境を整備していく必要があります。
- ・アスリートの県内就職について企業への働きかけや周知が不足しています。

○ アスリートの経験・技術の活用

- ・アスリートが参加した県民向けのスポーツイベントやスポーツ教室が不足しています。

### 施策の展開

○ 県内を拠点とした競技活動の支援

- ・県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業」をさらに強化推進します。

○ アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚

- ・本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡大する取組を支援します。

**達成目標**

**<基本目標3> 全国や世界で活躍する選手の育成**

◆重要目標達成指標（KGI）

指標名		現 状	目標（2022年度）	備 考
国民体育大会	男女総合（天皇杯）順位	18位 (H29年)	10位以内	10年後に1位を目指す
	冬季大会順位	1位 (H29年)	1位	
	本大会順位	45位 (H29年)	20位台	
国民体育大会（少年）・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		213人・団体 (H28年)	220人・団体	

◇重要業績評価指標（KPI）

SWANプロジェクト育成数

オリンピック育成支援対象者数

長野アスリート就職支援事業による県内就職アスリート数

## 基本目標 4

## スポーツの持つ多面性の活用

### 1 スポーツツーリズムの推進による地域経済の活性化

#### 10年後の目指す姿

- 長野県スポーツコミッションが核となり、全国大会・世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催され、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。

#### 現状と課題

- スポーツコミッションによる取り組み
  - ・スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等を推進し地域経済の活性化を図ることを目的として平成 28 年に「長野県スポーツコミッション」が設立され、事前合宿誘致に向けた取組が始まっています。

#### 施策の展開

- 国際大会の事前合宿誘致を通じた地域経済の活性化
  - ・ラグビーワールドカップ 2019<sup>TM</sup>や、東京オリンピック・パラリンピックの機会を最大限に活かし、事前合宿を誘致するとともに、長野県の特徴を活かしたスポーツ大会の誘致に取り組み、観光の振興・地域経済の活性化に結び付けていきます。

### 2 スポーツを通じた人々の交流促進

#### 10年後の目指す姿

- 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地との交流が活発に行われている。

#### 現状と課題

- 長野冬季オリンピック・パラリンピックレガシーの継承
  - ・1998年の長野冬季オリンピック・パラリンピックによって培われたスポーツへの参加意識や異文化交流を 2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2027年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会に向けて継承することが求められます。
  - ・国民体育大会・全国障害者スポーツ大会開催を契機として、競技会場の地域資源の魅力を積極的に発信していく必要があります。

## 施策の展開

- 国際大会等の開催を通じた人々の交流
  - ・長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを最大限に活かした国際大会等を誘致し、世界の人々との交流や誘客を促進します。
- オリンピック・パラリンピック開催を契機とした韓国・中国との交流
  - ・東アジアで連続して開催されるオリンピック・パラリンピック開催を機に、韓国・中国と連携し、平和や人類の調和のとれた進歩を目指すオリンピックムーブメントを発信します。
- 信州ならではのスポーツの魅力発信
  - ・山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ信州で親しまれているスポーツの魅力を世界に発信するとともに、より受け入れしやすい環境を整え誘客を促進します。
- ホストタウン事業の推進
  - ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた中国を相手国とするホストタウン事業に官民挙げて取り組みます。
- 国体、全国障害者スポーツ大会を通じた地域の活性化
  - ・国体や全国障害者スポーツ大会の競技開催地において、当該地域の地域資源と合わせたスポーツイベントの開催等、魅力発信による地域活性化を図る取組を支援します。

### 3 プロスポーツとの連携・協働の推進

#### 10年後の目指す姿

- プロスポーツと連携・協働した事業が盛んに行われ、地域振興につながっている。

## 現状と課題

- プロスポーツとの連携
  - ・県内には地域密着型のプロスポーツチームが多く存在するため、更に連携を強めスポーツ振興や地域の活性化等に取り組んでいく必要がある。

## 施策の展開

- プロスポーツとの連携事業の推進
  - ・「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」を締結したプロスポーツチーム等と連携・協力し、その知名度・発信力を活かしたスポーツの振興、青少年の健全育成、県民の健康増進及び観光振興など地域の活性化を図る取組を実施します。



- ・プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。

◇重要業績評価指標（KPI）

スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定に基づく実施事業数

## 2027年 第82回国民体育大会及び第27回全国障害者スポーツ大会 の開催に向けた取組

国民体育大会は、昭和21年の第1回大会以来、我が国最大のスポーツの祭典として、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力向上を図るなど、明るく豊かな国民生活の発展に寄与してきました。

また、全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与してきました。

本県においては、昭和53年(1978年)に第33回国民体育大会(やまびこ国体)及び第14回全国身体障害者スポーツ大会を開催し、その成功は県民に自信と誇りをもたらし、本県のスポーツ振興の大きな礎となるとともに、スポーツの感動を世界に発信した長野オリンピック・パラリンピック大会の原動力にもなりました。

そして、この度、これまで県民が培ってきたスポーツ文化を継承し、さらなる発展を期すため、2027年の第82回国民体育大会(冬季大会・本大会)及び第27回全国障害者スポーツ大会の本県招致に取り組むこととし、平成29年7月に、(公財)日本体育協会から開催申請書提出順序の了解通知(内々定)をいただき、2027年の両大会の本県開催が事実上決定したところであります。

これを受け、同年12月に全ての市町村長や競技団体、各界各層の関係団体で構成する「第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会 長野県準備委員会」を設立して、「オール信州」による10年間の取組をスタートさせました。

今後、両大会の理念や大会後を見据えた目標を定めた「開催基本方針」(別添)により、大会の成功に向けた準備に万全を期してまいります。

# 第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会 開催基本方針

[平成29年12月20日長野県準備委員会第1回総会で決定]

## 1 基本方針

第82回国民体育大会及び第27回全国障害者スポーツ大会は、全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信する大会として開催します。

大会の開催に当たっては、大会運営の簡素化・効率化を図るとともに、大会終了後を見据え、より多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現を目指します。

## 2 実施目標

### (1) “スポーツ”で長野県を元気にする大会

人生100年時代と言われる今、スポーツを健康に活かした取組を推進し、スポーツを通じた“健康長寿世界一の信州”の実現を目指すとともに、観光資源とスポーツ資源を融合させた地域活性化等にも取り組み、元気な長野県を推進する大会とします。

### (2) “スポーツ”の振興を支える好循環を創出する大会

長野県の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めるとともに、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とします。

### (3) “スポーツ”で共生社会づくりを加速する大会

障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しする大会とします。

### (4) “スポーツ”の環境づくりを推進する大会

少子高齢化社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設に対する需要が変化していく中であって、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とします。

### (5) “スポーツ”が長野県のファンを増やす大会

豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっただけの大会とします。